

2023年9月9日～11日／9月22日～26日

長野県北部震災被災地(栄村)における 文化財保全活動(第86回)報告

[2023年12月5日版]



中古の棚を置くだけで、「食」の民具類は見違えるほど整理が進んだ(撮影:松浦瑛士)

地域史料保全有志の会

==== 目 次 ====

はじめに	2
1. 第86回活動の基本データ	2
■日程	
■参加者	
■活動内容	
2. 考古班の活動	2
■作業内容の詳細	
■作業成果	
3. 民具班の活動	3
■旧東部保育園で所蔵している民具の分類整理作業	
■今後の民具受け入れ体制について	
4. 今回の自炊(民具班編)	7
5. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)	7

はじめに

8月中旬の文献班の活動に続いて、9月には考古班・民具班の活動が行われた。今回は各班リーダーの都合により、3つの班がそれぞれ別の時期に活動する形となったが、それでも夏の期間に全部の班が活動を行うことができ、充実した内容となった。以下、9月の考古班・民具班の活動を第86回の活動としてまとめ、詳細について報告していきたい。

1. 第86回活動の基本データ

■日 程：2023年9月9日～11日(考古班)／9月22日～26日(民具班)

■参加者：【考古班】高橋健樹・市川一秋・土堂進・★栄村から：石塚早苗

【民具班】石野律子・松浦瑛二・博多芳明・常田一彦・角和裕子・近藤夏緒子・伊藤早穂子
★栄村から：樋口正幸・広瀬幸利・越智勇氣・関澤睦美・鈴木早苗・鈴木剛・島田豊実

【差し入れ・支援等】吉楽旅館・上倉和美・関澤義人/睦美・博多芳明・鈴木早苗・島田豊実・角和裕子・石沢とよ子その他たくさんの皆さん

■活動内容：

【考古班】

[9月9日(土)] 大型縄文土器接合作業と図化資料の選別、および「故石沢巖氏所蔵資料」と関連のある破片資料の再調査

[9月10日(日)] 大型縄文土器接合作業の続き、および「故石沢巖氏所蔵資料」と関連のある破片資料の再調査

[9月11日(月)] 大型縄文土器接合作業の続き

【民具班】旧東部保育園にて収蔵資料の分類整理、新着資料の登録

[9月22日(金)] 夕方：教育委員会の越智さんと旧東部保育園にて打ち合わせ

[9月23日(土)] 午後のみ：民具札づくり・旧東部保育園の清掃 ※「吉楽旅館」泊。

[9月24日(日)] 旧東部保育園の民具片づけ、棚の運び入れと設置 ※「吉楽旅館」泊。

[9月25日(月)] 旧東部保育園の民具分類整理、新着資料の札付けなど ※「吉楽旅館」泊。

[9月26日(火)] 午前のみ：新着資料の目録づくりと確認

2. 考古班の活動(文・写真：高橋健樹)

■作業内容の詳細

(1) 9月9日(土) 旧東部小学校保管資料の整理作業、新たに石塚さんの参加を得て、大型縄文土器接合作業と図化資料の選別を行う。さらに、3月考古班の報告において紹介した「故石沢巖氏所蔵資料」と関連のある破片資料の再調査を行う。

(2) 9月10日(日) 大型縄文土器接合作業を継続し、破片の7割の接合に成功、ほぼ土器の文様・器形の状況を確認できた。今後は石膏で補修しながら、図化作業に入る。旧東部小学校保管資料の図化資料選別が終了する。また、「故石沢巖氏所蔵資料」関連資料の調査は、教育委員会の許可を得て、「故石沢巖氏所蔵資料」を借り出し接合作業を行ったが、接合はできなかった。しかしながら、土器の形態・胎土・焼成状況から同一個体であることは明白となった。

(3) 9月11日(月) 大型縄文土器接合作業を継続し、ほぼ完了した。可能な部分を接合し、石膏で

の修復作業直前まですすめ、作業を終了した。



作業風景(中央が石塚さん)



大型縄文土器の接合作業

■作業成果

- (1) 石塚さんの参加を得て、大型縄文土器の接合作業がほぼ終了した。今後は、石膏で補強しながら、図化作業に取り掛かる予定である。この資料は、土器の全体的特徴から縄文時代中期後半の沖の原式土器の範疇にあると推定するが、類例が見当たらない現状である。追跡調査が必要となった。
- (2) 「故石沢巖氏所蔵資料」については、同一個体が旧東部小学校採集資料の中に存在することが判明した。このことにより、旧東部小学校生徒が採集した「保管資料」のほとんどが、故石沢巖氏所有の原向地区の土地から採集された可能性を強くした。

3. 民具班の活動(文・写真：石野律子)

■旧東部保育園で所蔵している民具の分類整理作業

9月23日(土)、民具に付ける札作り。荷札のワイヤーを外し、タコ糸に付け替える。今回使用した荷札は和紙に防水加工されたものを使用した。従来の荷札よりもサイズが小さめだが、2023年に受け入れた資料であることが分かり易い。その後、旧東部保育園の民具収蔵庫へ向かった。徐々に玄関を入ると、入口から廊下まで民具で溢れ、足の踏み場がなくなっていた。1階奥の調理場は以前村が使用するというので空っぽにしてあったのに、大型民具がびっしり詰め込まれていた。当初の予定では、最初に清掃して、棚の設置場所を決めるつもりであったのだが、それ以前の問題発覚!であった。とにかく人が通れる通路の確保や大型スチール棚を余裕持って移動させることができる動線が必要であったので、まずは1階と2階全体の民具の収蔵状況を全員で再確認した。そこで判明した(新たに保育園に運び込まれていた)民具は、①原向集落にある倉庫で長年保管されていた2011年レスキュー当時の民具、②佐藤幸典家の民具、③上倉健一郎家の民具であった。

①はレスキューしたものの、既に同様の民具が多数ある場合に、自由に使って活用するための民具として保管していたものであり、村が倉庫を借用する形で2011年度から賃貸料を払い、保管庫としていた。様々な理由からその倉庫を明け渡すことになり、一昨年大量の民具が旧東部保育園に運び込まれていたのである。

②は、昨年夏に白鳥の佐藤幸典家から寄託資料としての申し出を受け、幸典さんの子息でこれまで保全活動にも参加してくださっていた佐藤洋平さんとのやりとりの中で私が選択した民具であった。

③は雪坪の上倉健一郎家の寄贈民具。下教育長からの依頼で樋口正幸館長が取りに行って下さった

民具で、しばらくこらっせの玄関に置かれていたものを広瀬幸利さんが見かねて収蔵庫まで運んで下さった民具であった。

足元に置かれていた大型民具を所定の分類場所にできるだけ近づけ移動させながら、今回運び入れる棚の置き場所を2階奥の分類「食」の部屋に6台と1階手前の「編織」の部屋に1台入れることを決定し、その場所を確保した。換気も行いつつ、清掃もし、歩けるスペースを広げた。さらに新たに運び込まれていた超大型や大型のスノーダンプは取り敢えず屋外軒下に出した。今日は参加者が少人数であったが、最初は動線の確保も困難であったから、民具を移動させ整理するにはちょうど良かったかもしれない。



玄関入り口付近



玄関入って直ぐの正面や廊下は民具で溢れていた

9月24日(日)、常田さんと広瀬幸利さんの軽トラを借り、軽トラ3台分で博多さんから譲ってもらったスチール棚や衣装ケースなどを保育園に全て運び込んだ。お天気も良く、昨日の準備が功を奏して午前作業は予定通り順調に進んだ。午後からは民具を棚に並べたら収蔵展示らしくなり、空間に余裕ができた。棚板にはクッションシートを敷いて錆予防した。今日の作業の指示は全て世田谷区郷土資料館学芸員の松浦さんに任せた。



棚の置き場所をつくる



中古の棚を設置

9月25日(月)、こらっせにて館長も交えて栄村の民具の今後について意見交換した。こらっせが休館日なので、締め切って全員で東部保育園へ移動。新着資料の札付けや民具写真撮影を行った。佐藤家民具にはモンペやモモヒキの仕事着や寝巻きなどが確認できた。仕事着や寝間着類は消耗品である

ため、衣類としての役目を終えるとオシメにリメイクしたり、さらに雑巾などボロとして再利用し、最終的には燃やしてその灰を生活に使う。つまり今でいう SDGs のお手本のようなことがかつては当たり前に行われていた。だから仕事着が原形のまま保存されていたというのは非常にラッキーなことなのであった。

衣類は衣装ケースに収納し、番号札が結べなかった資料は抽出しの段を変えて、まとめて収納した。さらに子供用の可愛いソリや背負子などもあり、今までにレスキューできなかった民具類が加わった。

札付けが終わった民具はそれぞれの民具分類の場所に移した。但し佐藤家の手漉き和紙関連の道具類はこらっせの民具収蔵室に移動させた。(前回の活動より手漉き和紙企画展の準備として、和紙関連の道具の一部や参考文献をこらっせ2階民具収蔵室へ移動させているためである) 次回、札を縫い付ける必要あり。また防虫剤を買って入れること。



朝のコーヒーを頂きながら談笑(真面目な話も!)



新着民具に札を付ける



佐藤幸典家の手漉き和紙道具はこらっせ2階で調査



念願だった仕事着が加わった

9月26日(火)、東部保育園にて、昨日付けた民具札に通し番号と名称を記入して数量などを確認した後、こらっせ2階民具収蔵室にて、佐藤幸典〔洋平〕家の和紙関連用具の札付けや雑誌書籍類の目録作成をおこなった。そのうち小学生用の雑誌『子供の科学』などは2階の教室に展示し、古い地図なども同じく2階教室の本棚に並べた。同家のレコード3枚はこらっせ1階蓄音機が展示されている場

所に置いた。(書籍・雑誌やレコードなどには登録番号は付けていない)



雑誌と書籍類などの目録とり



受け入れ番号は付けずにこらっせ2階で展示

■今後の民具受け入れ体制について

こらっせ館長や教育委員会の越智さんと今後の民具の収集や受け入れに関して、話をさせて頂いた。次々と新たに民具が旧東部保育園の収蔵庫に持ち込まれてしまうと、レスキューした民具の管理を村から任されている私たちは、いくら作業しても整理が終わらなくなる。まずはレスキューした民具を分類整理して、収蔵庫の中を見やすくし、現状では民具の何があって何が欠落しているのかが見て分かるようにしておきたいのである。新たな収集は全て整理し終えた後、栄村の民具として充実させる意味で受け入れたいと考える。但し、紀年銘など重要な手がかりとなるような墨書などがある民具は収集保管したいので、その都度教育委員会の越智さんの方で判断してもらってから受け入れることが望ましい。受け入れ体制のルールを村の人に周知してもらわなくてはならない。

[民具受け入れの流れ(案)]

1. 村民の民具寄贈申し出は村の教育委員会に連絡する。
(こらっせに申し出る人がいても、まずは教育委員会へ連絡すること)
(個人間で判断しない、直接こらっせや収蔵庫へ持ち込まない)
↓
2. 教育委員会の越智さんが村民の家へ行き、必要かどうか決定する。
(但し大型のスチール棚などの棚類は民具整理に使用できるのでいつでも受け入れ可能)
↓
3. 越智さんまたは本人が民具受け入れ台帳に記入し、取り敢えず村役場の空きスペースで一時保管。

越智さん曰く、収蔵庫に持ち込まれた民具は基本的には村の管轄になり、教育委員会の判断で処分の可能性もある。だから限りある空間の中、例えば超大型スノーダンプなど重量がある大型民具を今後どのように資料として残すのか、何のために残すのかを考える必要があるとのこと。悩ましい問題である。

4. 今回の自炊(民具班編・文・写真:石野律子)

地元のみなさまや参加者の差し入れで、今回もたくさんの野菜が集まり、残った野菜は参加者のお土産になった。どうもありがとうございました。ちょうど野菜の切り替わりの時期で、夏野菜の最後ゴーヤやズッキーニ、秋ナスとピーマンが食べきれないほど。夏の猛暑でもピーマンだけは本当に元気で育ったようである。

ランチメニューは小滝玄米ご飯にゴーヤチャンプルとミョウガの酢漬けとお味噌汁、サバトマトアラピータパスタ、酢の物、ズッキーニなど。夏野菜カレーや秋の味覚よっちゃん(関澤義人)家の山栗は栄村の味でした。



5. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)

前回到引き続き、今回は9月1日から10月30日分までを掲載する。10月31日からの分は、当日から始まった秋の保全活動(文献班)の報告書に掲載する。

[2023年9月1日~2023年10月30日までの支出]

<宿泊・厚生関係>

○入浴券(回数券1綴他)

6,500円

計	6, 5 0 0 円
[2023年 9 月 1 日～2023年10月30日までの収入]	0 円

計	0 円
[残 額]	1, 3 5 7, 3 9 6 円

※本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。